

(別添 1)

応募のあった事例の概要について

- 1 障がいを理由に生活の中で困ったこと、いやな思いをしたこと
- 2 障がいによって区別や排除や制限がされないよう、配慮や工夫をしてほしいこと
- 3 対応がよかったこと

1 障がいを理由に生活の中で困ったこと、いやな思いをしたこと

福祉の分野

【福祉サービスの利用の拒否】

○自閉症で行動障がいのあるケースは、施設利用（入所、通所、ショートステイ）を断られる。

【福祉サービスにおける差別的な取扱い】

- 保育園で進級させてもらえなかった。1人だけ散歩に連れて行ってもらえなかったり、遠まわしに、運動会は休んでほしいと言われてたりした。
- 算数や国語を勉強したいと思っても、「作業をしていればいい」と言われた。

【福祉サービスにおける差別的な言動】

- 知的障がいというだけで、施設では子ども扱いされる。
- 身体障害者手帳の申請に行った窓口で、手帳を使う目的や理由を聞かれ、「税金対策に使うのか」と言われた。
- 窓口で障害年金のことについて尋ねたとき、「新薬ができて治るかもしれない。年金をあてにされては困る」と言われた。

【福祉サービスの制度における差別的な取扱い】

- 車イスが故障したため役所に相談したところ、「何？歩けるんだから。車イスは貸し出していないし。医師から重度心身障がい者である診断書があればね。」と笑って話をにごされた。

教育の分野

【本人などの意向を無視した就学先や教育内容の決定】

- 進路を決定する際に、子どもの状態だけで学校の選択を勧められる。

【教育・育成への受入れの拒否】

- 視覚障がいを理由に学校の入学を拒否された。「他の学生にとっても、教師にとっても障がい者の存在は迷惑」と言われた。

【教育・育成への受入れの制限】

- 入学時や授業を受けるとき、修学旅行などで必ず家族同伴を条件にされる。

【授業や学校生活における差別的な取扱い】

- 「卒園式には来ないで下さい」と言われた。

【授業や学校生活における差別的な言動】

- 九九や時計の見方を子どもに教えていたら、学校の先生から、「そんな事を教え

ても、大人になって私たちもあまり使わないでしょう」と言われた。

医療の分野

【治療・入院の拒否】

○知的障がいというだけで、診療は無理だとして受け付けてもらえない。

【診療時などにおける差別的な言動】

○腫瘍が出来て受診したとき、医師から「検査は痛いので、騒がれるからしません。

もし悪性でも、27年間生きたのだからもういいのでは」と言われた。

○16、17歳の頃、看護師に、乳児に話すようなことばで話しかけられた。

○障がいのためオウム返しの言葉が多く、病院で自分の症状が言えなかったとき、医師に怒られた。

○医師から、子どもの独り言を「うるさい」と怒られた。

【診療時などの差別的な取扱い】

○入院したとき、付き添いが無い。

労働の分野

【採用（募集）の拒否】

○障がいを持っているというだけで、経験もあるのに面接すら受けさせてもらえなかった。

【採用（募集）の制限】

○片腕が動かないため断られた。車椅子か、軽度・中度の障がい者しか採用しない。

【賃金についての差別的な取扱い】

○一方的に施設や事業所から「形態が変わりました」といって、最低賃金適用除外の手続きをされたことがある。

○書類が読めないことをよいことに契約書を作らない。

【職場の配置（仕事の配分や権限を与えることを含む）についての差別的な取扱い】

○上司から「障がい者は外に出られては困る」と言われたり、「障がい者だから見栄えが悪い」という理由で、宣伝などの表立った仕事はさせないと言われたりした。

【昇進、降格などについての差別的な取扱い】

○他の同期の人はみんな昇格しているが、「障がい者を雇うことは義務的なものがあるとしても、昇格等は制度で決められていない」として、昇格させてもらえない。

【仕事の中における差別的な取扱い】

○出来そうな作業も「病気があるから無理だ」と言われた。

【訓練や教育などについての差別的な取扱い】

○障がいの重さを一方的に判断され、試行もさせてもらえない。

【退職（解雇）についての差別的な取扱い】

○病気が再発して入院したところ、退職させられた。

【職場における差別的な言動】

○頭がおかしいからこんな所（作業所）に来ているんだろうと言われた。

○障がいがあるとわかっただけで、態度が異なり、普通に接してもらえない。

交通の分野

【鉄道、バス、タクシーなどの利用を拒否、制限】

○3日以上前の予約とエレベーターの設備がないと、車いすでの電車への乗車を断られる。

【鉄道、バス、タクシーなどの利用時における差別的な取扱い】

○タクシーに車椅子を積むのを嫌がられる。

○バスに乗る際に療育手帳を提示すると、舌打ちをされたり、迷惑そうな態度をとられたりする。

【駅、空港、バスターミナルなどの利用の拒否、制限】

○電動車いすで電車を利用する場合、駅の営業時間内に乗下車しないと、スロープをかけてもらえない。

情報の分野

【文化活動、報道活動のなかで差別的に取り扱う】

○地方新聞に「容疑者は精神科に通院歴があった」と書かれていた。精神病だけとりあげられて書かれている。

サービス提供の分野

【金融や保険の利用などにおける差別的な取扱い】

○キャッシュカードが破損したため再発行を申し出たところ、「視覚障がい者が一人で来店したときは再発行できない」、「複数の銀行員が立ち会わなければならない、銀行員が不足してしまうので、すぐには出来ない」と言われた。

【商品を購入するときの差別的な取扱い】

○修理にあたって、不要品まで購入させられた。

【レストラン、レクリエーション施設などのサービス利用における差別的な取扱い】

○市民プールを利用する際、申請書の記入を求められ、付き添いを強要された。

○障がいを理由に施設利用を断られた。

その他

【結婚、出産の制限】

○交際している知的障がい者の男女（女性）が、避妊手術を受けさせられた。

【団体組織、町内会の行事などへの参加についての差別的な取扱い】

○クラブの代表者から「クラブに障がい者がいると困る」と言われた。

【団体組織、町内会などにおける差別的な言動】

○成人になっているにもかかわらず、「くん、ちゃん」と呼んでいる。

○私を見た子どもが「怪獣が来た」と言っていた。その親も「怪獣だね」と言っていた。

2 障がいによって区別や排除や制限がされないよう、配慮や工夫をしてほしいこと

福祉の分野

【福祉サービスの情報提供について】

○担当者が変わる毎に最初から説明をしなければいけないので大変。後任者にきちんと引継ぎをして説明などを行ってほしい。

○会議や集まりに行っても、点字の資料がなくて困る。学校教育の中に点字の学習を組み込み、点訳者を育成してほしい。

【福祉サービスの利用手続きについて】

○視覚障がい者でも点字・メールなどにより自分で処理できるような形式や簡単なものにしてほしい。

【福祉施設の建物・設備について】

○施設の中に点字ブロックがない。

【職員などとのコミュニケーションや情報のやりとりについて】

○役所の担当者が制度を知らなかったため、利用できる制度があるにもかかわらず、ないと言われた。

○代読・代筆をお願いしたい。

教育の分野

【施設や設備について】

○洋式トイレ、スロープ、昇降機などを設置してほしい。

【介助について】

○入学、授業、修学旅行などでも必ず家族同伴を条件にされ、かかる費用は家族負担。

【コミュニケーションや情報のやりとりについて】

○支援学校と施設が支援内容を共有できていないので、バラバラな支援を行っている。情報や支援内容の共有化、引継ぎ、ケア会議の充実などを図ってほしい。

【教員や児童、生徒が障がいを理解するための配慮・工夫】

- 支援学校と地域や障がい者施設との交流連携が少ない。
- 専門の職員を配置してほしい。
- 知的障がい児への教育体験を積んでほしい。

【そのほか障がいの特性に応じたきめ細かな配慮・工夫】

- 隣の市にある特別支援学校に行かなければならず、不便。
- 高等部に入学できなかった例がある。全員入学できるような体制であってほしい。
- 通信簿、内申書の評価算定に際し、「障がいのためにできないこと」（内部障がいや運動制限のある子が持久走をできないなど）を評価の対象から外し、障がいによる特殊事情を記載できるようにしてほしい。

医療の分野

【コミュニケーションや情報のやりとりについて】

- 書類の記入や誘導を進んで行ってほしい。
- 難聴のため、診療順になって呼ばれたことを知らずにいたことがある。大きな声の看護師さんに呼んでもらうか、受付の時に難聴者であることを伝える手立てがほしい。

【本人の了解と同意を得るうえでの配慮・工夫】

- 治療の説明を一方向的にではなく、障がい者にわかる説明にしてほしい。

【制度について】

- 地域を越えた移動支援がほしい。

労働の分野

【採用時における配慮・工夫】

- 書類選考をやめて、面接重視にしてほしい。

【職場の施設や設備について】

- 音声パソコンの整備など、障がい者も働きやすい職場を確保してほしい。

【職場でのコミュニケーションや情報のやりとりについて】

- 職場内で、いろいろな障がい者の交流を促進してほしい。

【業績の評価について】

- 障がい者の昇格制度等についても、細かく決めてほしい。

【仕事を理解するための配慮・工夫】

- 障がい者が単独でできること、他の障がい者や健常者と組んでやれば効果的なことなど、働く場をつくる工夫をしてほしい。

【求職活動について】

- 相談支援事業所の支援サービスを拡充してほしい。

【制度について】

- 障がい者の雇用率をホームページ等で公表し、障がい者雇用の機運を高めてほしい。

交通の分野

【鉄道、バス、タクシーなどの利用について】

- バスの行き先案内の放送がない。行き先を尋ねても、バスに乗った際に乗務員が気づいてくれない。発車してしまう。
- バスの運転手には手を貸してもらったり、言葉をかけてほしい。
- 車いす対応付きのバス、長距離用列車や新幹線に車イス対応ができる座席やトイレを整備してほしい。
- バスに同乗している学生にも障がい者が乗っていることを知ってほしい。

【道路、歩道、駐車場などの利用について】

- 障がい者駐車場が一般車両で満車で駐車できない。駐車場の警備員が障がい者駐車場の誘導をしない。
- 今ある道路を車いす歩行にやさしい道に整備してほしい。
- 点字表記を増やしてほしい。

【制度について】

- 障がいの違いによって、サービスを受けられたり受けられなかったりしないようにしてほしい。

情報の分野

【対人のコミュニケーションについて】

- 会議の資料を点字にすることが困難な場合は、資料の内容を教えてくれる代読通訳の援護も必要。

【テレビ、出版などマスメディアの利用について】

- テレビの天気予報など、「ご覧のとおりです」というアナウンスだけの場合が増えてきている。
- テレビの字幕、副音声が付いた番組が少ないので、増やしてほしい。

【情報通信や機器の利用について】

- 点字を読めない視覚障がい者が増えているので、誰でも情報が得られるように音声機器の普及が必要。
- 最近「音声に従って」という案内が多く、難聴者は誰かに頼らなければならない。

【講演会や大勢が利用する施設における配慮・工夫】

- 会議や集まりに行っても、点字の資料、手話通訳や手書き PC 通訳がない。
- 文字だけの情報ではわかりにくい場合がある。絵、写真などの視覚からの情報もほしい。
- 役所から送られる文書や広報に読めない字があるので、ふりがなをふってほしい。

【文化活動、報道活動について】

- 情報源に乏しい。もっと各機関が情報を発信してほしい。定期的な発行物の送付や訪問があればいい。
- ホームページや広報はわかりにくく、障がい者や保護者にとって必要な情報をどこから入手すればいいのか、誰に聞けばいいのか必要な情報がどこにあるのかわかりにくいので、明示してほしい。

サービス提供の分野

【金融や保険の利用について】

- 金融機関の窓口で、書類に記入することが難しいので、代筆をしてもらいたい。
- 視覚障がい者なので、ATMでお金をおろすとき、暗証番号を銀行の職員に話しておしてもらうため、個人情報をお知らせしなければならない。ATMにケーブルでつながれた携帯電話のようなもので、音声で聞きながら操作できるものがあるといい。

【商品を購入するときの配慮・工夫】

- 墨字の郵便や宅配便等を送りたいときの宛名書き、荷造り、発送に視覚障がいの人の協力が得られない。
- 代筆はできないと断られた。

【レストラン、レクリエーション施設などのサービス利用について】

- 行きたいレストランに障がい者用トイレがないため、行きづらい。
- スーパーの店舗前にある障がい者駐車場スペースにテントを張って出店している。

【制度について配慮や工夫をしてほしい】

- 地域を越えたヘルパーがほしい。無駄なお金を使わないために、読んでくれる人、点字の説明がほしい。

その他

- みんなが同じように書いたり（筆談）、手話を使ったり当たり前にできるようになればいい。
- 選挙の際、字が読めないことがあるので、顔写真を置いてもらいたい。投票箱が二つあるとどうしていいかわからないことがあるので、と声をかけてもらいたい。
- 役所庁舎が車いす利用者が利用できる設備になっていない。障がい者用トイレもなく、2階より上の階に用事があっても行くことができない。

3 対応がよかったこと

- 医師、受付共に笑顔で話しをよく聞いて、回答もしてくれる。
- 道路を挟んで向かい側の歯医者に行くときに、横断歩道まで送り迎えをしてもらえてよかった。
- 病院の先生が話しを聞いてくれる時は、耳マークをつけ、受付の人に「私は難聴なのでよろしくお願いします」と言う。すると理解のある先生は最初から丁寧に紙に書いて説明してくれるので、感謝した。
- 手帳を持っていると病院に払ったお金が戻ってくる。病院は親切に教えてくれるので、助かる。
- 仕事について、能力に応じて配慮してもらっている。
- 有料道路割引がとても助かっている。
- 幼稚園の運動会で、障がい者が出場した際に、健常児が手を引いて援助、応援してくれたことに、感銘を受けている。
- ドアを開けてくれたり、笑顔で声をかけてくれたり、車いすを移動してくれたり、ささいなことがすばらしく大きくありがたい。